

令和5年度第3回埼玉県南西部地域医療構想調整会議
議事録

1 日 時

令和6年3月12日（火）18:00～19:05

2 場 所

オンライン（ZOOM）

3 出席者

【委員】 17名

井上達夫委員（会長）、滝澤義和委員（副会長）、小柳聡委員、大八木実委員、細田泰雄委員、飯田惣授委員、鈴木義隆委員、菅野隆委員、富家隆樹委員、佐藤千春委員、今井慎委員、増尾猛委員、近藤政雄委員、平野静香委員（代理出席）、鈴木貴久委員、皆川恒晴委員、湯尾明委員

【アドバイザー】

埼玉医科大学医学部 特任教授 小野寺 亘氏

【事務局】

保健医療政策課職員、医療整備課職員、医療人材課職員、朝霞保健所職員

【傍聴人】

5名

4 議 題

(1) 議事「医療機関対応方針の協議・検証について」

資料1-1、1-2により保健医療政策課から説明。

医療機関対応方針一覧について、委員から意見、要望等はなかった。

(2) 議事「圏域別フェイスシートについて」

資料2により朝霞保健所から説明。

（質問）滝澤委員

南西部地域の病床稼働率が高い中では、圏域内で未稼働病床の調整をするより、圏域間で病床を調整した方が良いのではないかと。

（回答）朝霞保健所

南西部医療圏内で当面できることはないかと、という視点で未稼働病床の調整について今回お話をさせていただいた。

（回答）保健医療政策課

地域医療構想は構想区域（二次医療圏）内で医療を完結することを目指しているものであるが、実際のところは圏域をまたぐ患者の流出入や、医療機関同士の連携等もある。

今後の課題としては、隣接する圏域同士の関係者の意見交換の場を設けるべきではないかといった御意見もいただいている。

今後、国では新しい地域医療構想の議論が始まると聞いている。その議論も踏まえ

て二次医療圏内での議論だけでなく、他圏域との意見交換の場を持つことも検討していきたい。

(3) 報告「病床整備の進捗状況について」

資料 3-1 により医療整備課から説明。

資料 3-2 により TMG あさか医療センターから説明。

委員から質問等はなかった。

(4) 報告「「病院整備計画の公募結果」及び「第 8 次地域保健医療計画（案）に基づく病床公募」について」

資料 4-1、4-2 により医療整備課から説明。

(意見・補足説明) 富家委員

(仮称) 富家療養病院(120床、川越市)の整備計画については、現病院の道路を挟んだ真向かいに整備予定である。

(質問) 富家委員

高度急性期、急性期、回復期、慢性期に分けて流出入を分析しているが、各病院では得意な疾病がある。圏域内の流出入を気にするのであれば、疾病別に分析する必要があるのではないか。病態別に検討できないか。

また、今回は 2013 年のデータのため、回復期を中心に診療報酬の体系も変わってきているので、状況も変わってきているのではないか。

(回答) 朝霞保健所

病態別の分析ができるのであれば分析したいが、現時点では困難である。

(回答) 保健医療政策課

病態別の分析ができるのであれば分析したいが、県で自力で出そうとすると 4 機能別でもかなり困難。2013 年当時は厚生労働省から配布されたツールに基づき作成できたが、疾病別の流出入の分析は困難だと思われる。

(意見) 富家委員

今回は 2013 年のデータのため、まずはデータをアップデートするのが寛容ではないか。

(5) 議事「紹介受診重点医療機関について（令和 5 年度外来機能報告）」

資料 5 により保健医療政策課から説明。

委員から質問等はなかった。

○ アドバイザーからの意見

2 点コメントする。

1 点目は、(5) 議事「紹介受診重点医療機関について（令和 5 年度外来機能報告）」についてである。

独立行政法人国立病院機構埼玉病院が紹介受診重点医療機関の基準に合致して、引き続き指定を継続されたことについて敬意を表する。

また、埼玉病院は昨年 7 月の本調整会議で「公的医療機関等 2025 プラン」を報告されている。厚生労働省は、プランの作成に際して、公立・公的医療機関の役割として

持続可能な地域医療提供体制を確保するため、限られた医師、看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用するという視点を最も重視し、また、新興感染症の感染拡大時等の対応の視点も持つことも重要としている。

プランは必要に応じて改定することも可能のため、埼玉病院には今後も地域における重要な役割を期待する。

2点目は、この4月から始まる医師の時間外労働の上限規制に向けた特例水準についてである。

制度の開始まで1か月を切ったが、A水準、B水準それぞれの病院で準備が進められていると推察する。

本日出席されている病院管理者にあっては、制度の運用に際しては是非とも現場の医師とコミュニケーションを密に図り、4月からの制度開始に遺漏なく準備を進めていただきたい。

5 閉会